



長岡天神駅周辺における 都市景観形成の検討について

第3回 長岡京市まちづくり審議会 景観専門部会

～高層建築物の色彩基準について～



長岡京市
2022 市制50周年

専門部会の検討事項

基礎条件の整理

第
2
回

検討対象

色彩のコントロールが必要な高層建築物の立地（検討対象エリア）を都市計画情報から確認・抽出する

視点場

検討対象エリア越しに西山を眺められる視点場を確認する

検討対象・視点場の設定

第
3
回

高層建築物の色彩について検討

色彩基準

高層建築物に対して誘導する色彩の基準を検討

配色手法

高層建築物の配色手法を検討

第
4
回

ガイドライン（案）

各検討事項をまとめたガイドライン（案）

本日のポイント

1.高層建築物に対する推奨カラーの検討

山・空と調和する推奨カラー（マンセル値）を検討

- 既存のまち並みにおける建築物の色彩
- デザイン審査会での色彩誘導経過

西山の眺めとの調和



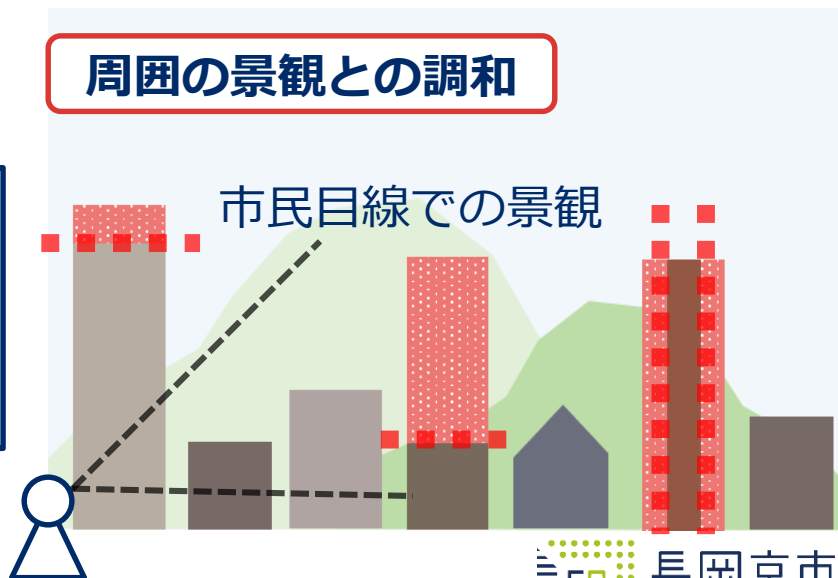
2.高層建築物に対する色彩構成（配色）の検討

市民目線での景観を考慮した、

適切な色彩構成（配色）を検討

- 想定される色彩構成を反映した連続立面図・風景図

周囲の景観との調和



1. 検討にあたっての基礎情報
2. 高層建築物に対する推奨カラーの検討
3. 高層建築物に対する色彩構成（配色）の検討
4. 第4回専門部会の検討事項

1. 検討にあたっての基礎情報

- I. 検討に用いる視点場**
- II. 長岡京市景観形成基準**
- III. 検討にあたっての高層シミュレーション**

I. 検討に用いる視点場（中遠景）

JR長岡京駅前



山や空、市街地のまち並みを眺望する景観（中景）

- 高層建築物の立ち込み具合をシミュレーション
- 既存のまち並みにおける建物色彩の抽出

I.検討に用いる視点場（近景）

天神通り



アゼリア通り



街路および沿道建物で構成される市民目線の景観（近景）

- 沿道建物の立ち方をシミュレーション
- 既存の街並みにおける建物色彩の抽出

Ⅱ.長岡京市の景観形成基準

景観計画区域と検討対象エリア

検討対象エリア：

20m以上の建築物が建つ地域で
小畑川以東の工業系の地域を除いたもの

凡例

- 西山・山麓景観区域
- 市街地景観区域
- 住工景観区域
- 工業景観区域
- 河川軸
- 沿道軸①②
- 旧街道軸
- 景観重点地区

検討対象エリアの該当地域

Ⅱ.長岡京市の景観形成基準

大規模な行為（建物高さ15m超）に関する基準

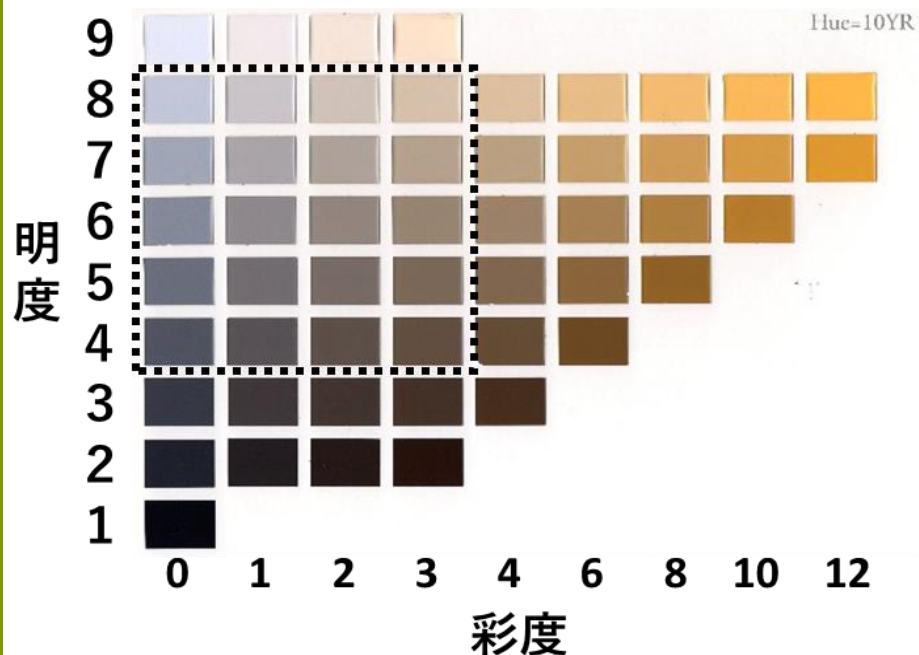
景観形成基準（建物の色彩）

建築物の色彩は、以下に定める**色彩基準**に適合するとともに、
西山の眺めや周囲の景観との調和に配慮したものとする

色彩基準（工業以外）

■ ベースカラー（見付面積の70% 以上）

色相：2.5YR～5Y



■ サブカラー（見付面積の30% 未満）

使用する色相	明度	彩度
R・YR系	4～8	5 以下
Y系	4～8	4 以下
R・YR・Y系以外	4～8	2 以下
N系については、明度 8 以下とする。		

■ アクセントカラー（見付面積の5% 未満）

外観のアクセントカラーとして着色される
部分については**色彩基準なし**

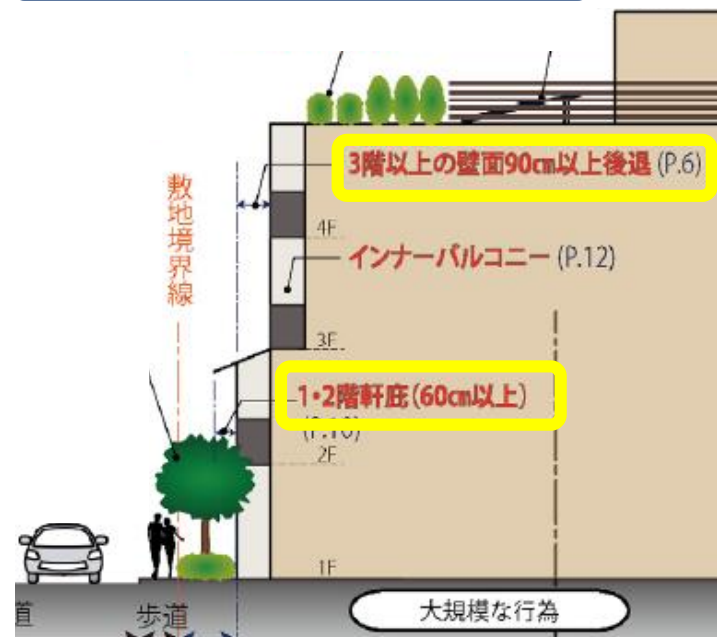
Ⅱ.長岡京市の景観形成基準

ヒューマンスケールでのまちなみ景観の連続性に配慮した基準

沿道軸①（天神通り）



沿道軸②（アゼリア通り）



分節	西山・山麓	市街地	住工	工業	河川	沿道①	沿道②	旧街道
3階以上の外壁は、1階外壁面より原則として90cm以上後退させる	○				○		○	○
1,2階の外壁には軒庇（原則として軒の出は60cm以上）を設ける	○	○				○	○	○



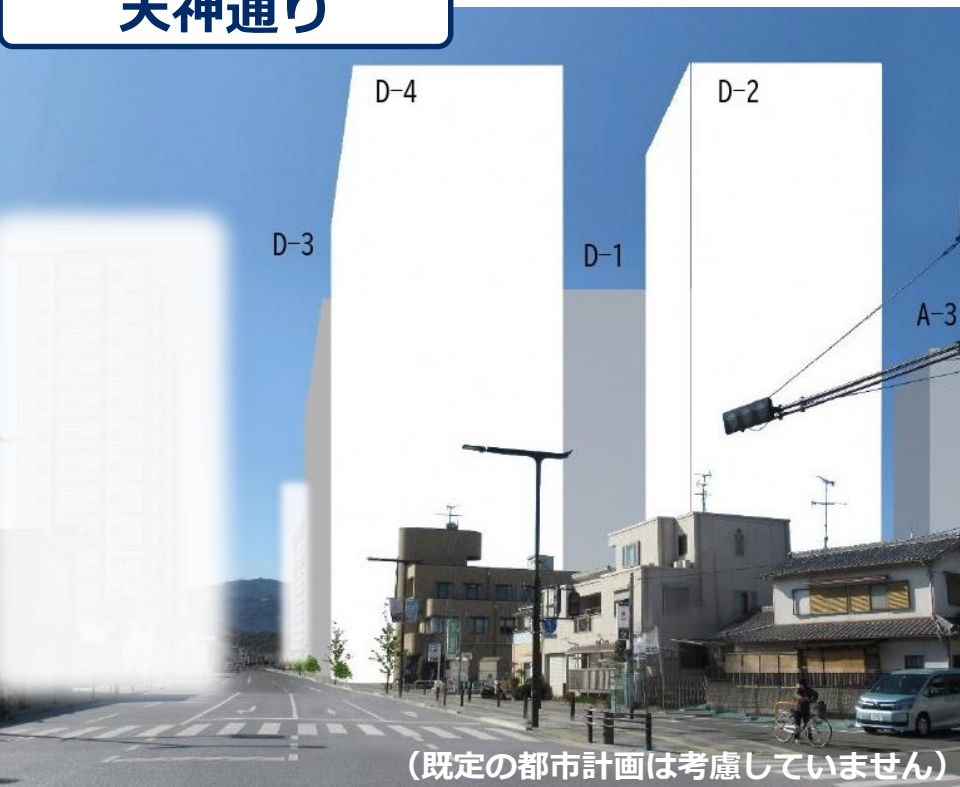
Ⅲ. 検討にあたっての高層シミュレーション

JR長岡京駅前

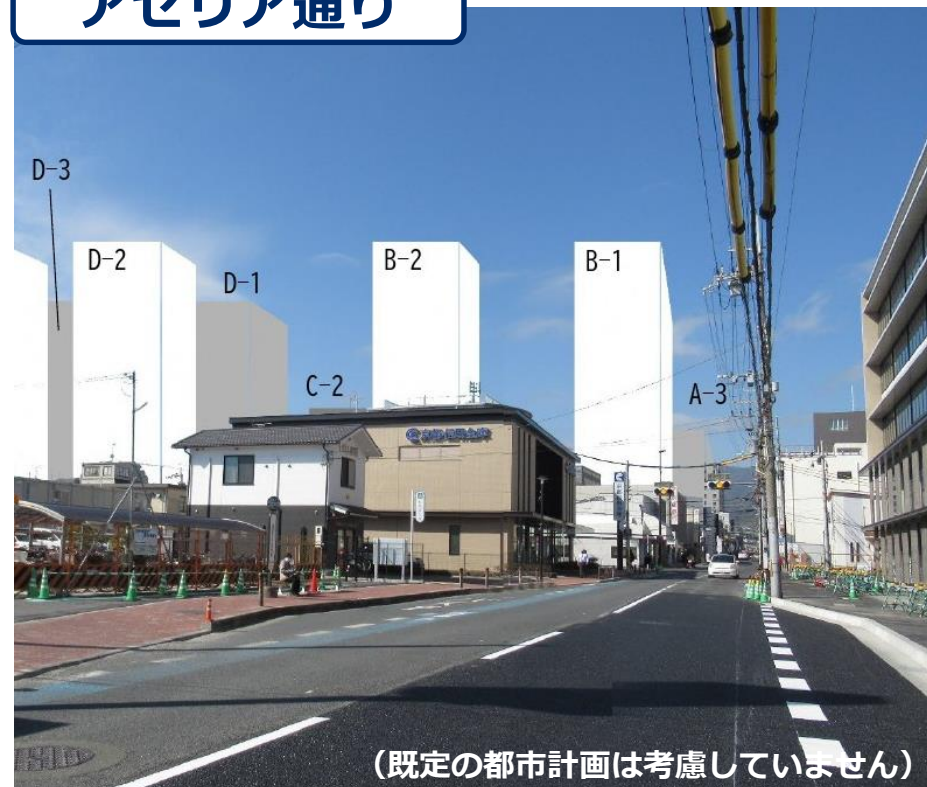


Ⅲ. 検討にあたっての高層シミュレーション

天神通り



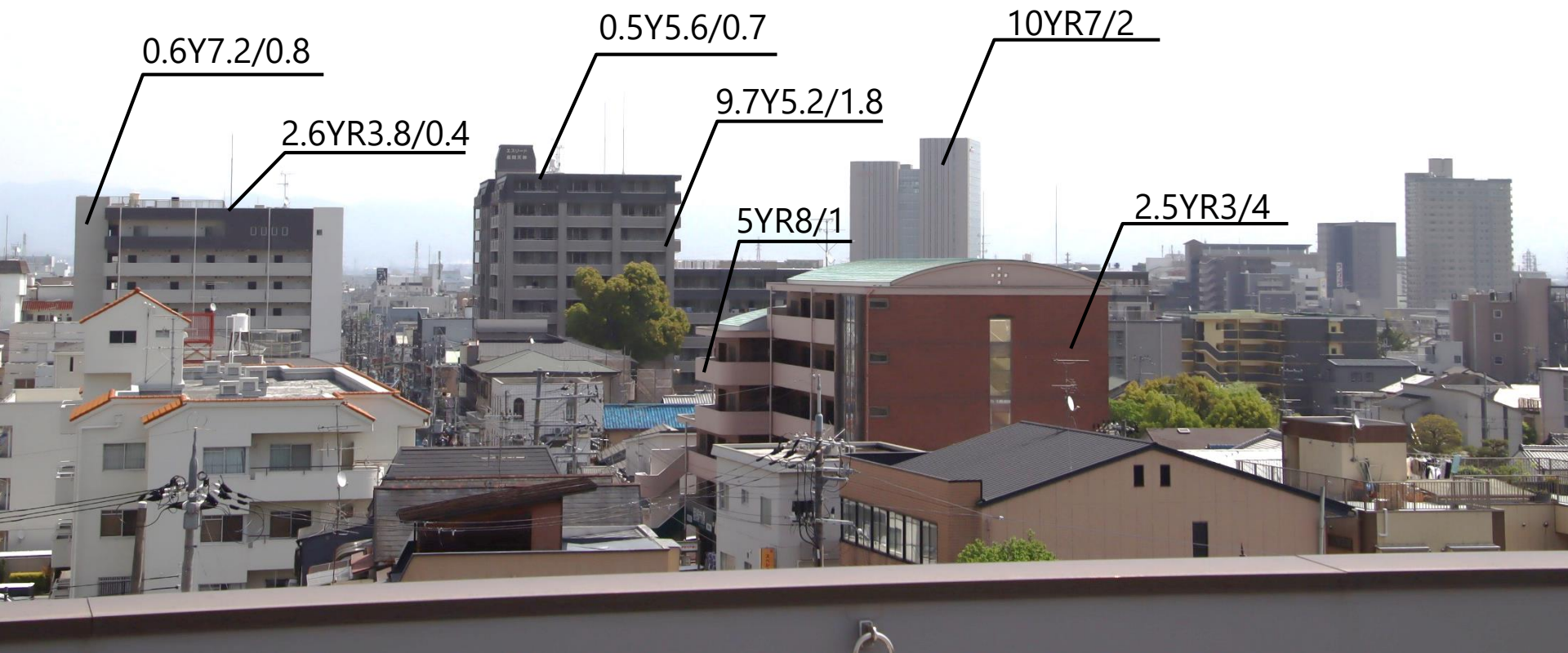
アゼリア通り



2. 高層建築物に対する推奨カラーの検討

- I. 既存のまち並みにおける建築物の色彩**
- II. デザイン審査会での色彩誘導経過**
- III. 山・空との調和色の検討**
- IV. 推奨カラー（案）**

I. 既存のまち並みにおける建築物の色彩



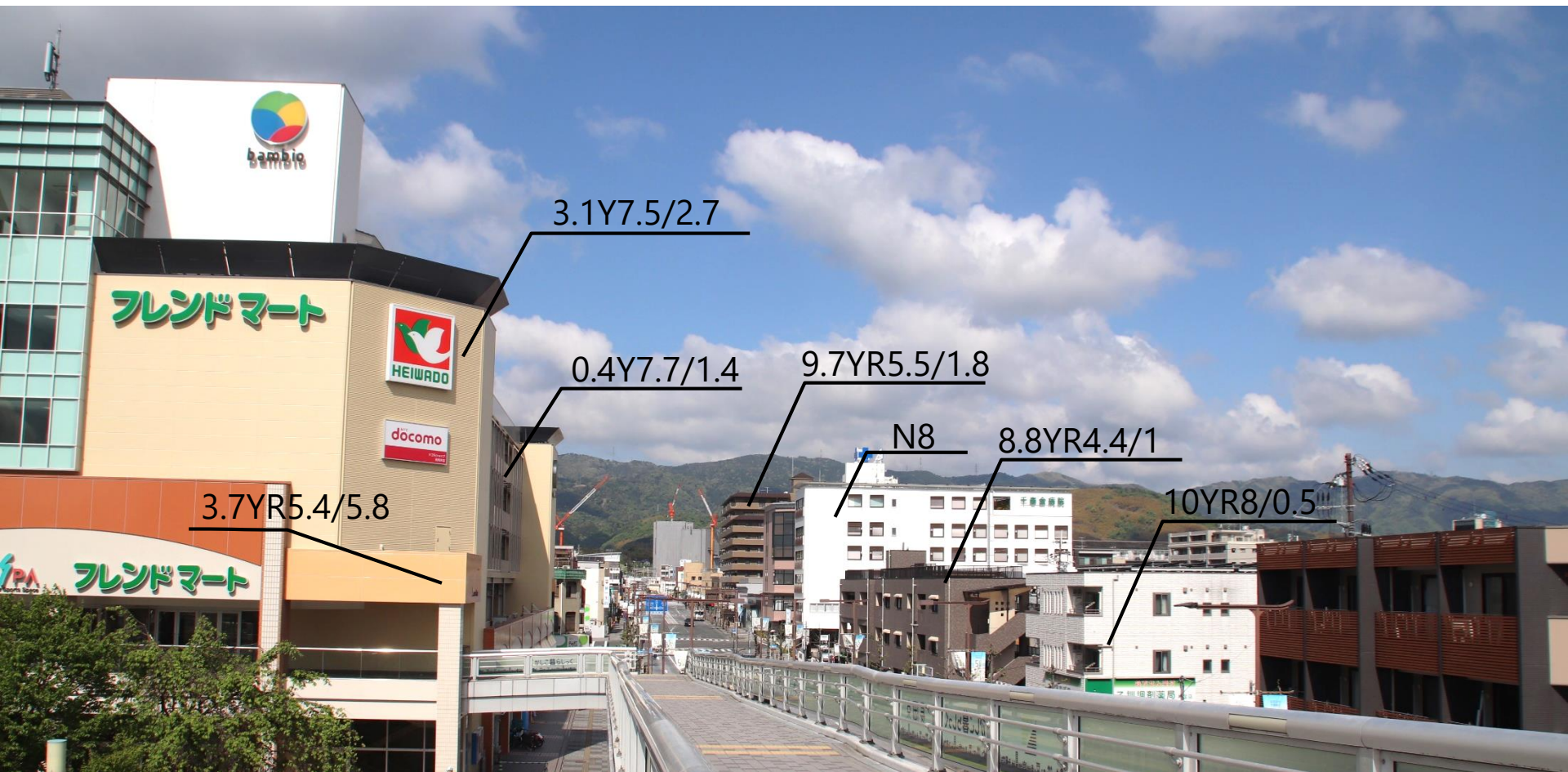
図書館屋上からJR長岡京駅方面

I. 既存のまち並みにおける建築物の色彩



図書館屋上から八条が池方面

I . 既存のまち並みにおける建築物の色彩



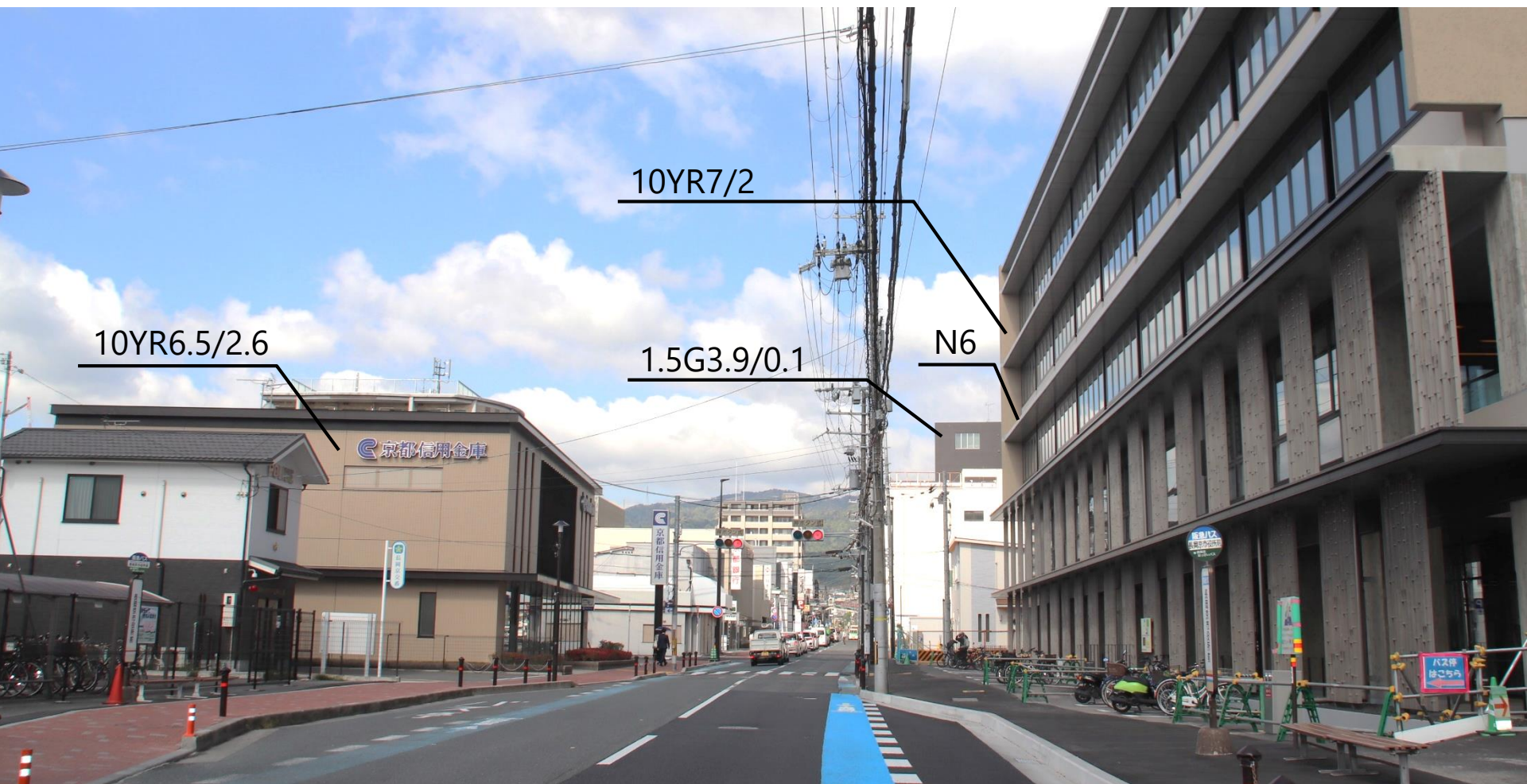
JR長岡京駅西口から長岡天満宮方面

I. 既存のまち並みにおける建築物の色彩



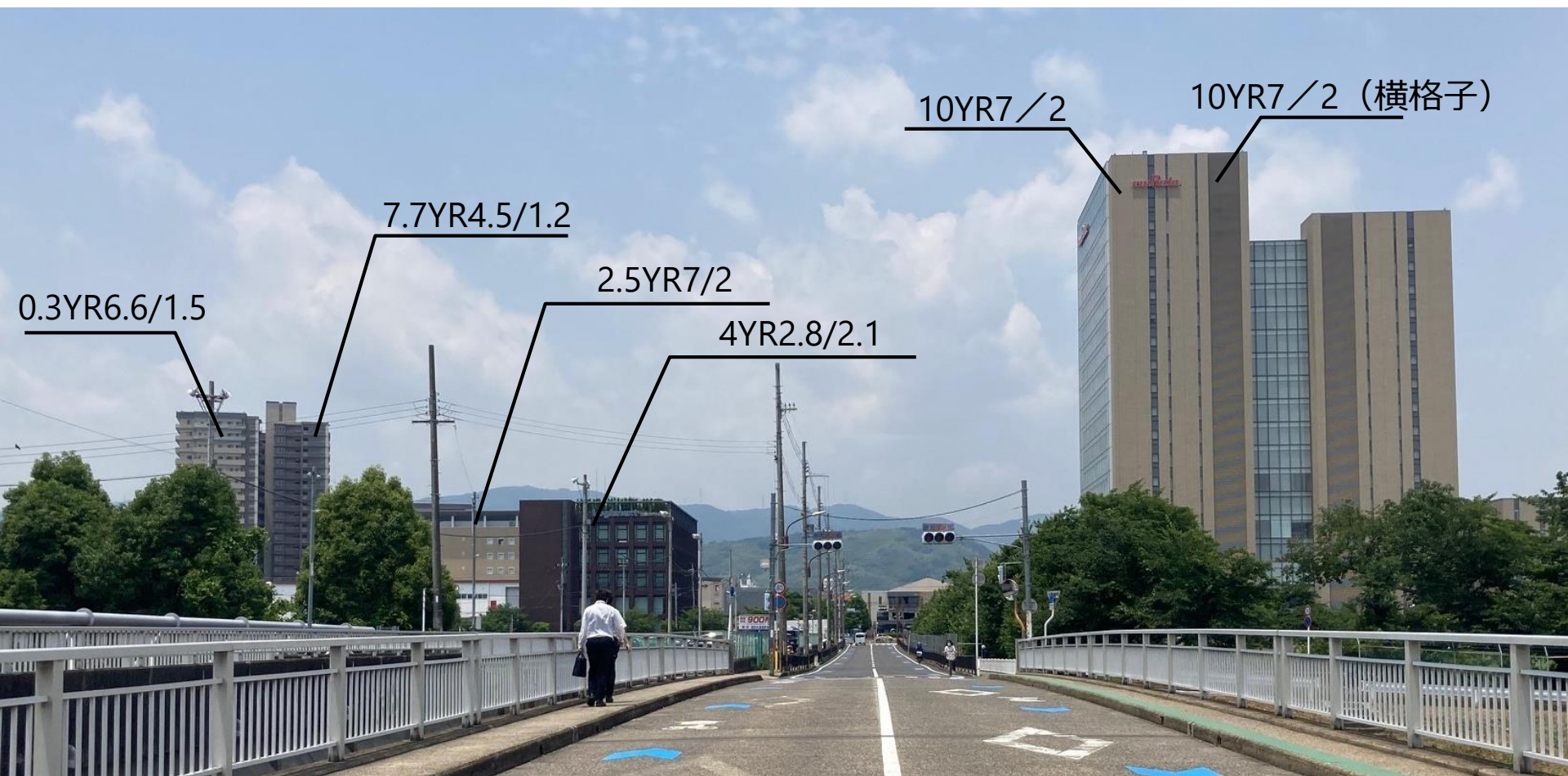
天神通り交差点から長岡天満宮方面

I. 既存のまち並みにおける建築物の色彩



市役所前から長岡天神駅方面

I. 既存のまち並みにおける建築物の色彩



古市橋からJR長岡京駅方面

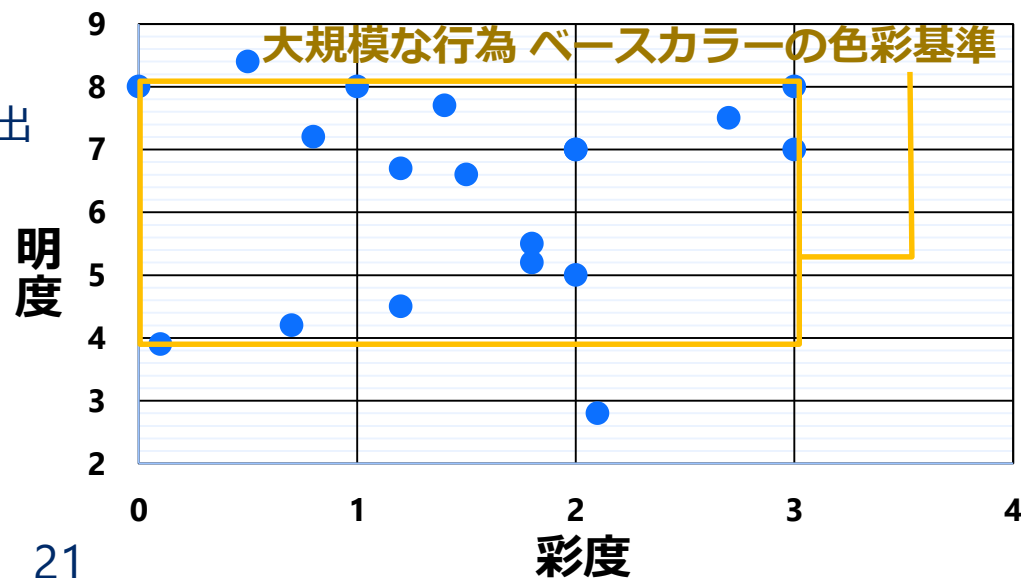
I. 既存のまち並みにおける建築物の色彩

既存高層建築物におけるベースカラーの色彩傾向



阪急長岡天神駅、JR長岡京駅周辺で
高さ15mを超える建築物の上層部の色彩を抽出

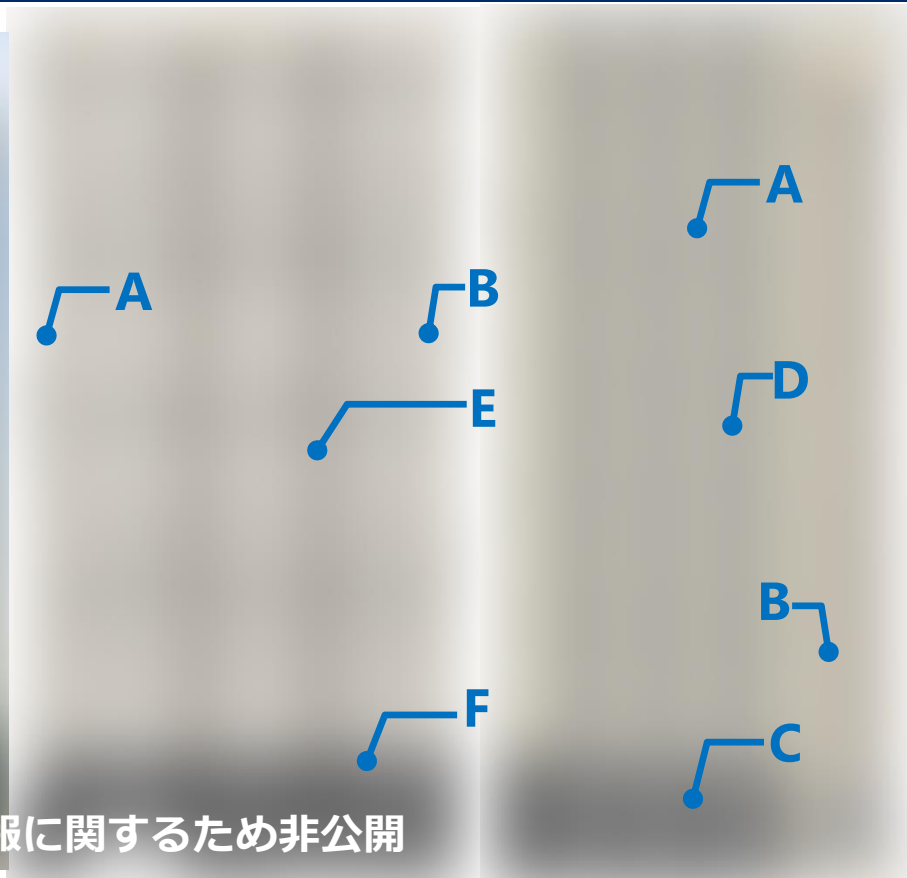
- 色相：YR・Y系が多い
- 明度：6～8程度が多い
- 彩度：1～2程度が多い



Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

事例1

当初案



【ベースカラー】

A : 5Y8/3

B : 5Y8/1.5

【サブカラー】

C : N4

D : N4

E : N2.5

F : N2.5

計画中の建築物であり事業情報に関するため非公開

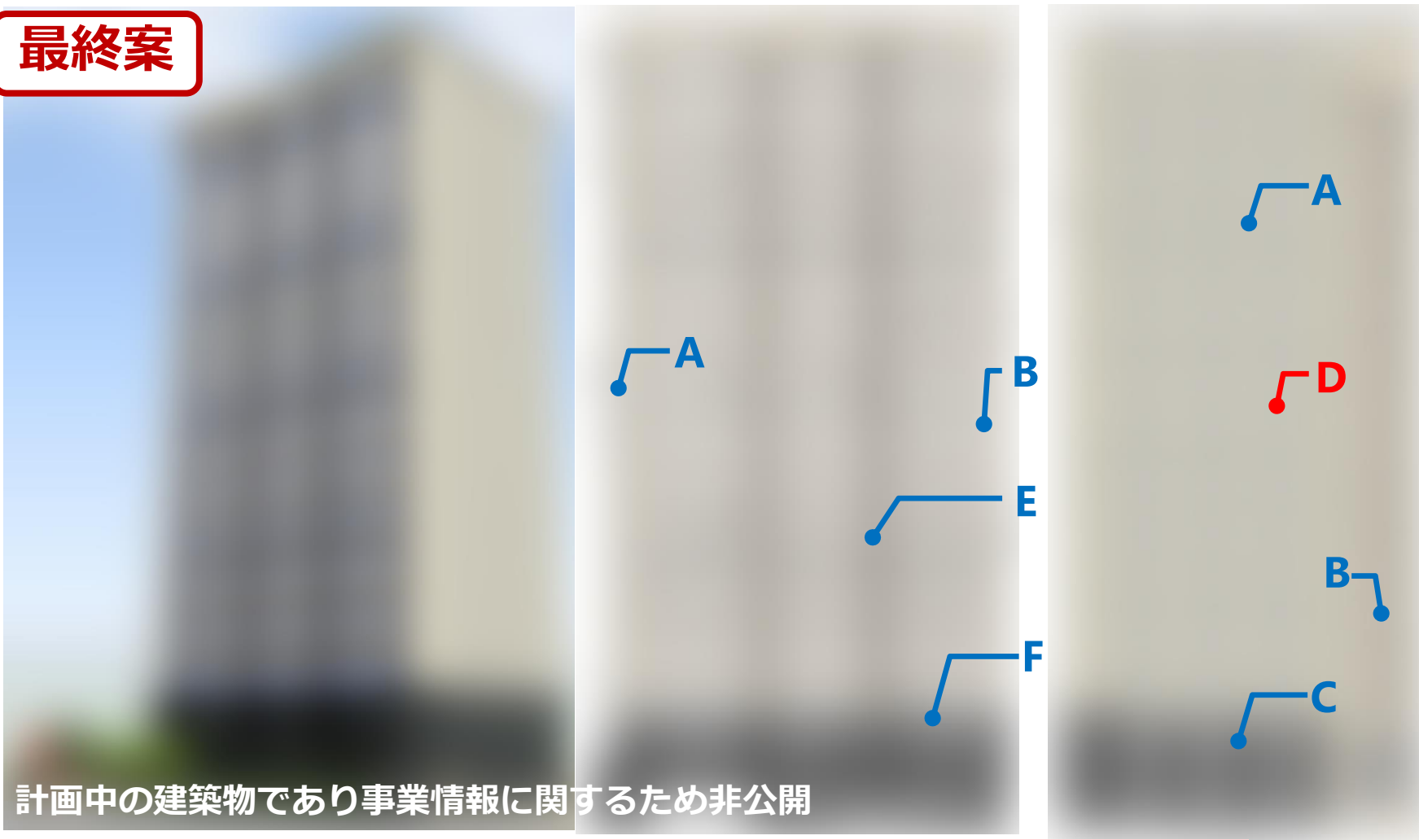
デザイン審査会からの意見

低層部以外の壁面について、ベースカラーとの対比（コントラスト）が強すぎる為、改善を検討すること（明度差1.5以下が目安となる）

Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

事例1

最終案



【ベースカラー】 A : 5Y8/3 B : 5Y8/1.5

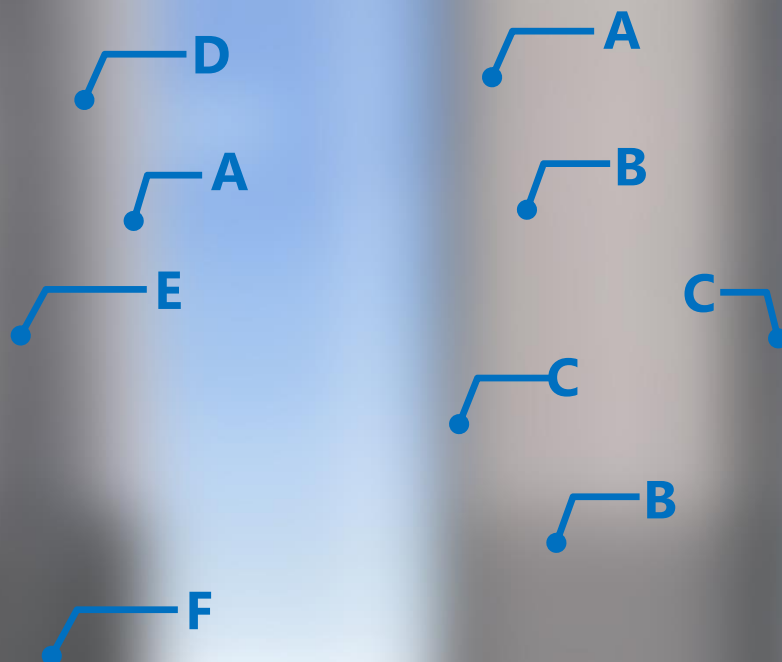
【サブカラー】 C : N4 D : N6.5 E : N2.5 F : N2.5

Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

事例 2

当初案

計画中の建築物であり事業情報に関するため非公開



【ベースカラー】

A : 5 YR 8 / 0.5

B : 10 Y 6.5 / 0.5

【サブカラー】

C : N4

D : N4

E : N2

F : N4

デザイン審査会からの意見

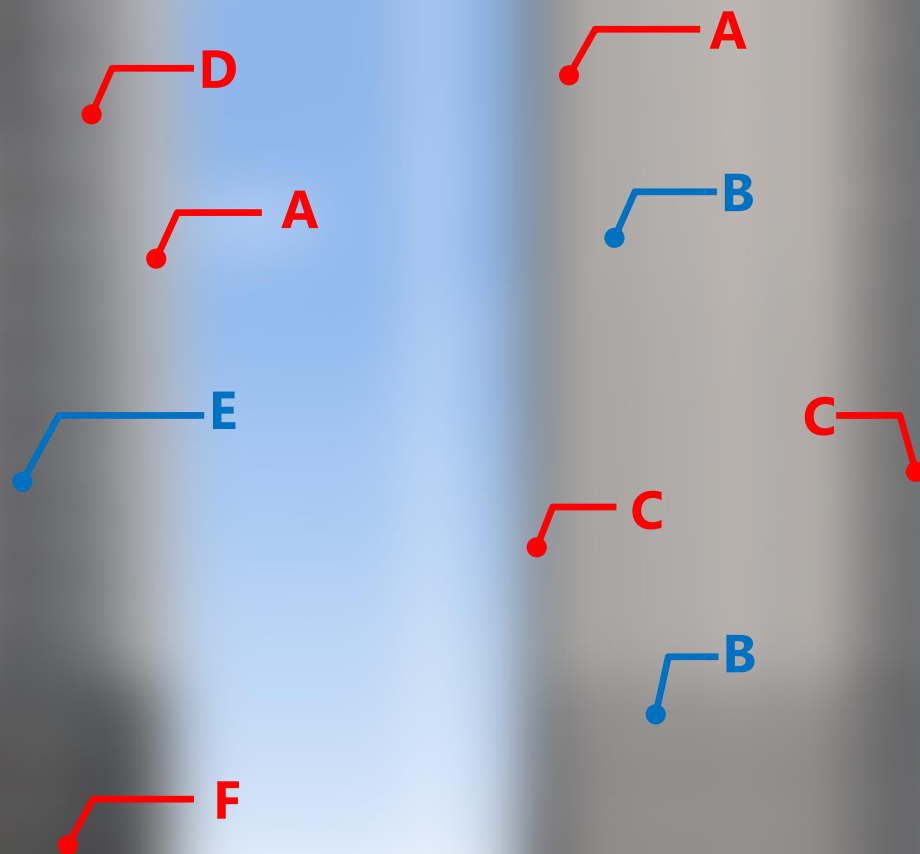
- ベースカラーをアースカラー（10YR6～7／2～3）とすること
- N系の色彩部についても少なくともN6程度とすること

Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

事例 2

最終案

計画中の建築物であり事業情報に関するため非公開



【ベースカラー】

A : 10 YR 7 / 2

B : 10 Y 6.5 / 0.5

【サブカラー】

C : N6

D : N6

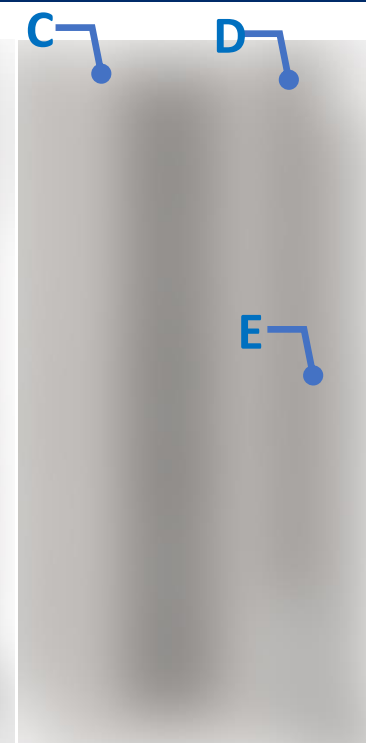
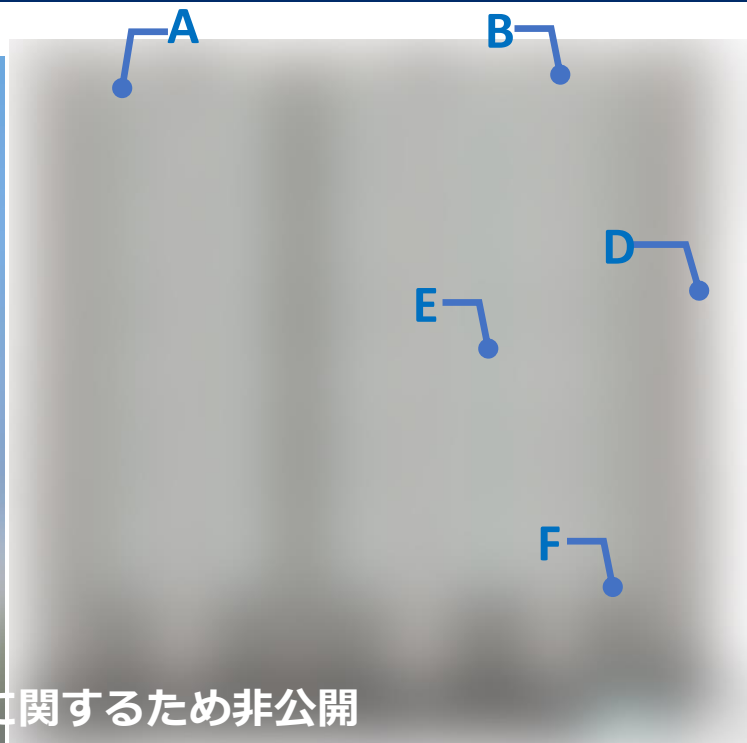
E : N2

F : N6

Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

事例3

当初案



計画中の建築物であり事業情報に関するため非公開

【ベースカラー】 A : 2.5Y6 / 1 B : 10YR7 / 0.5 C : 10YR7 / 0.5

【サブカラー】 D : 2.5Y4 / 1 E : 10YR7 / 0.5 F : N5

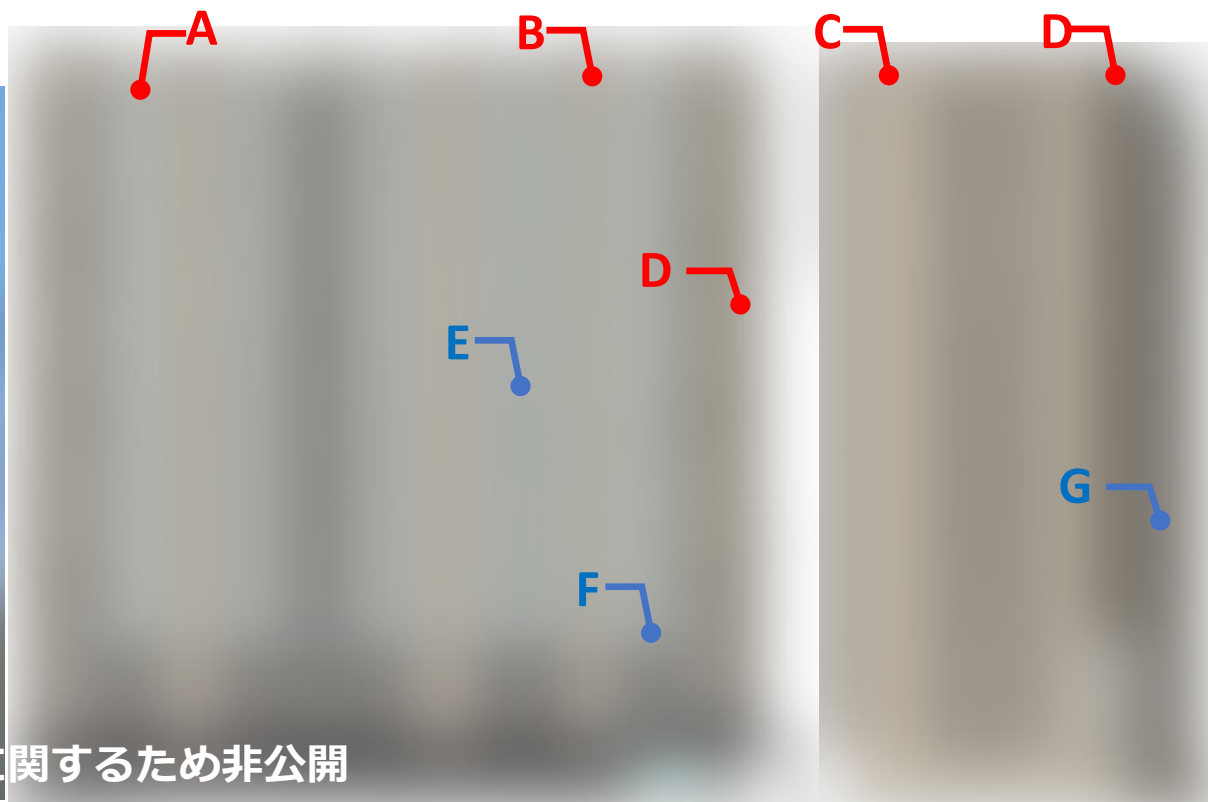
デザイン審査会からの意見

- 見えがかりの大きな面については（10YR6～7／2～3）とすること
- 前面街路から見上げた場合、スラブ裏の色彩が目立つためアースカラーに改善すること

Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

事例3

最終案



【ベースカラー】 A : 2.5 Y 6 / 1 B : 2.5 Y 7 / 2 C : 2.5 Y 7 / 2

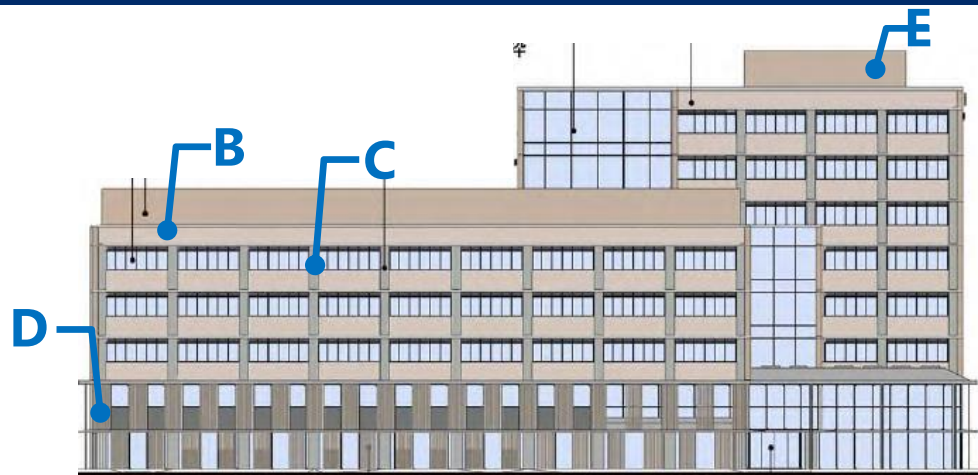
【サブカラー】 D : 2.5 Y 4 / 2 E : 10 Y R 7 / 0.5 F : N 5 G : N 5

(スラブ裏 2.5 Y 6 / 2)

Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

新庁舎

当初案



【ベースカラー】

A : 10 YR 7 / 2

B : 10 YR 8 / 1

【サブカラー】

C : N6 程度

D : 10 YR 7 / 2

E : 10 YR 7 / 2

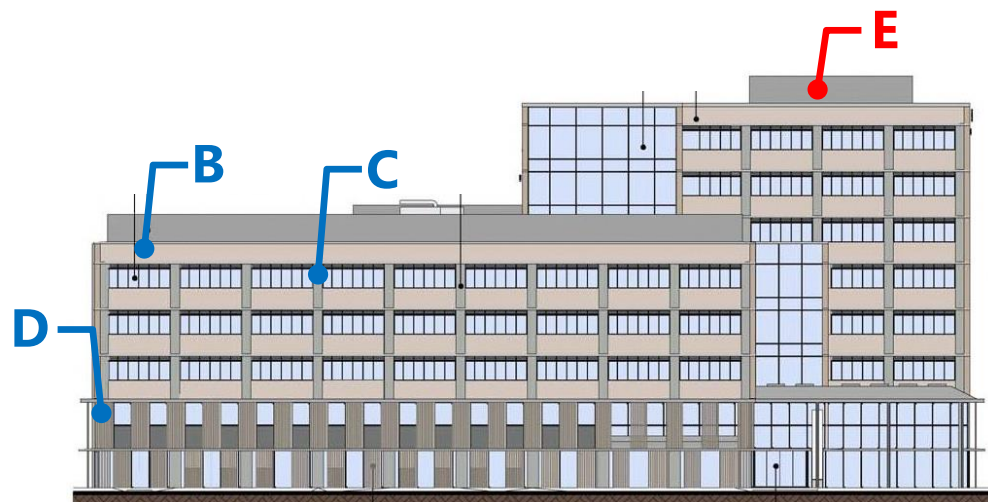
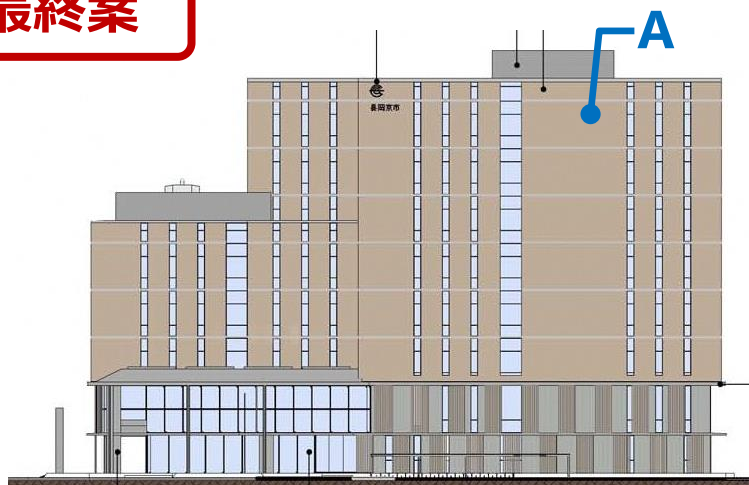
デザイン審査会からの意見

- 目隠しルーバーは外壁面と色彩差をつけることで圧迫感の軽減に効果があるため検討すること

Ⅱ.デザイン審査会での色彩誘導経過

新庁舎

最終案



【ベースカラー】

A : 10 YR 7 / 2

B : 10 YR 8 / 1

【サブカラー】

C : N6 程度

D : 10 YR 7 / 2

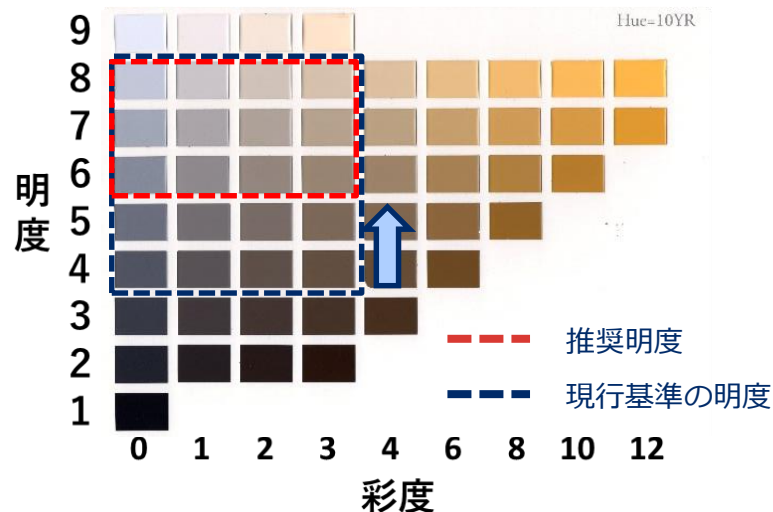
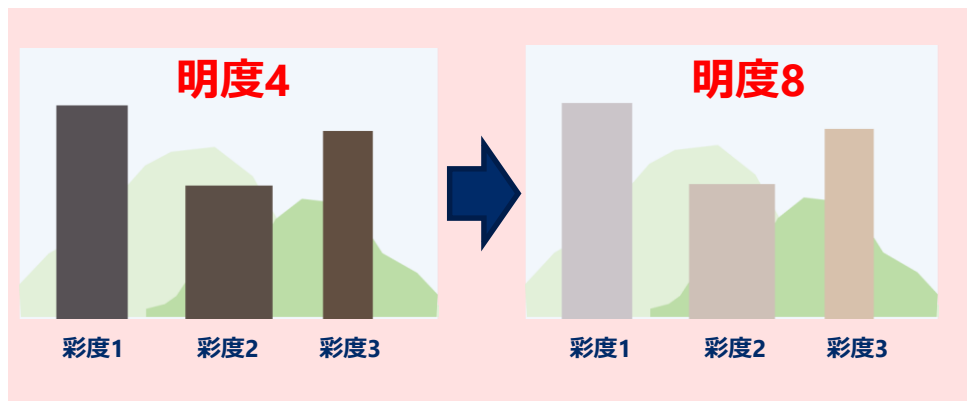
E : N6 程度

Ⅲ. 山・空との調和色の検討

明度に関する検討

参考

- 背景の違いによる明度の作法（福岡市色彩ガイドライン より）
空や遠景の山の場合 → 明度 7～8 を用いる
山の場合 → 明度 6～7 を用いる（山や森等との距離が近い場合はさらに 1 段階明度を下げる）
- 明度差を意識した配色（色彩学の実践 著 渡辺 安人 より）
類似色相配色が主になる外観などの環境色彩では明度差を小さくしてソフトにする（明度差 1.5 程度）



- 背景となる西山・空との調和への配慮
- 建築物の群景観において隣棟間の明度差を抑えられる範囲

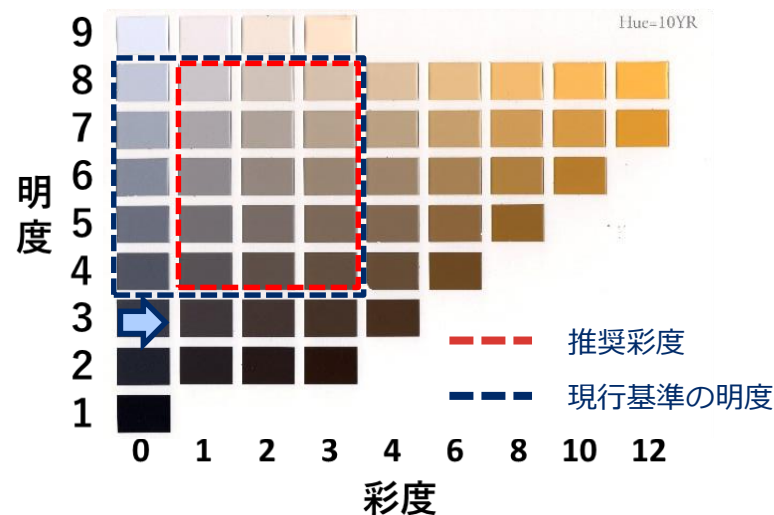
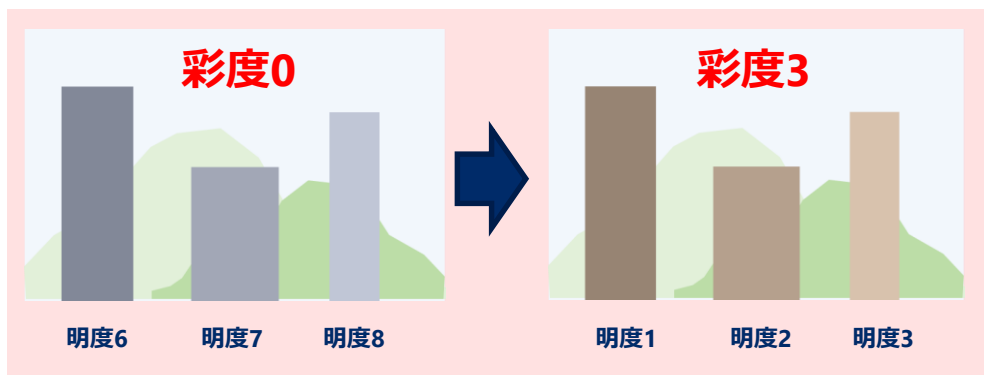
➡ **背景となる西山と空に配慮し明度 6～8 とする**

Ⅲ. 山・空との調和色の検討

彩度に関する検討

参考

- 大面積でN4を用いるような配色は避けましょう（東京都景観色彩ガイドラインより）
暖色を中心に蓄積された街並みの色の中で、無彩色は無味乾燥とした印象を与えやすい
- 建築の白色は注意（色彩学の実践 著 渡辺 安人より）
白な外壁は景観からも突出しやすくなります
建築では、白といってもオフホワイト（わずかに色みのある白色）を用いることが一般的



- 無彩色は無味乾燥とした印象を与えやすい
- 背景となる山・空などの自然景観と馴染まない

➡ **無彩色（彩度0）を避け彩度1～3とする**

IV.推奨カラー（案）

推奨カラー

山・空や自然色との調和色

高層建築物の壁面で使用するベースカラーについて、「西山の眺めとの調和」という観点から、下記2点に配慮する。

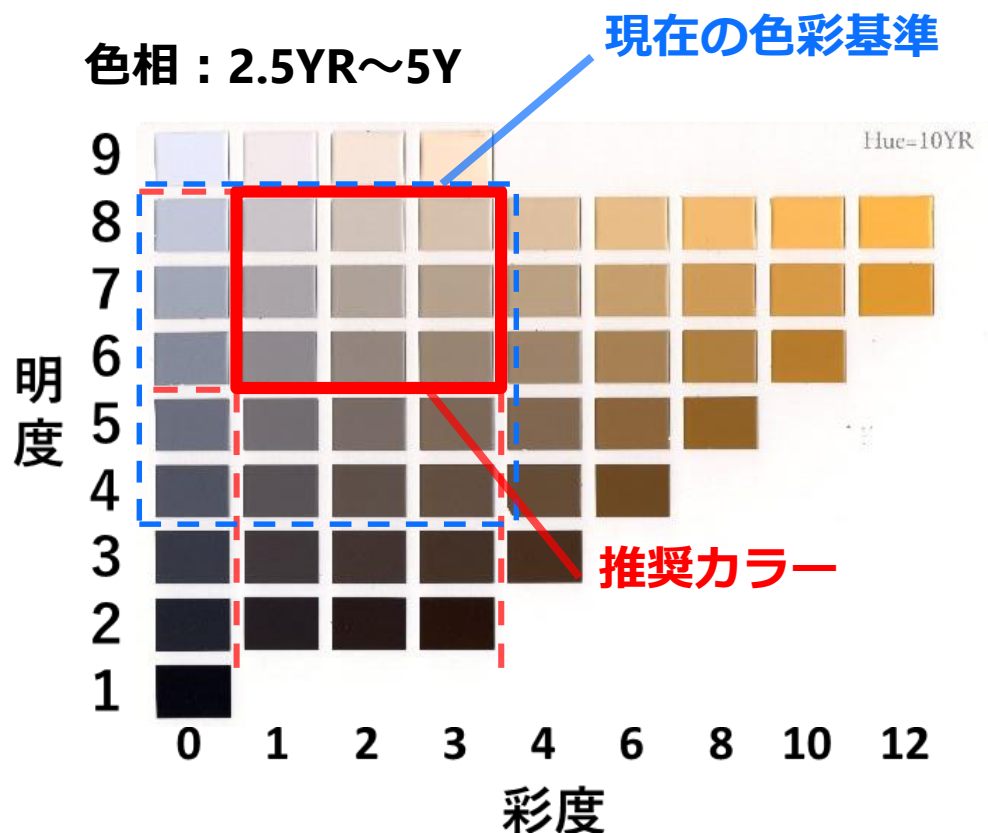
●明度 6～8 とする

山や空と同程度の明度にとすると、背景に溶け込んだ印象となります。

●彩度 1～3 とする

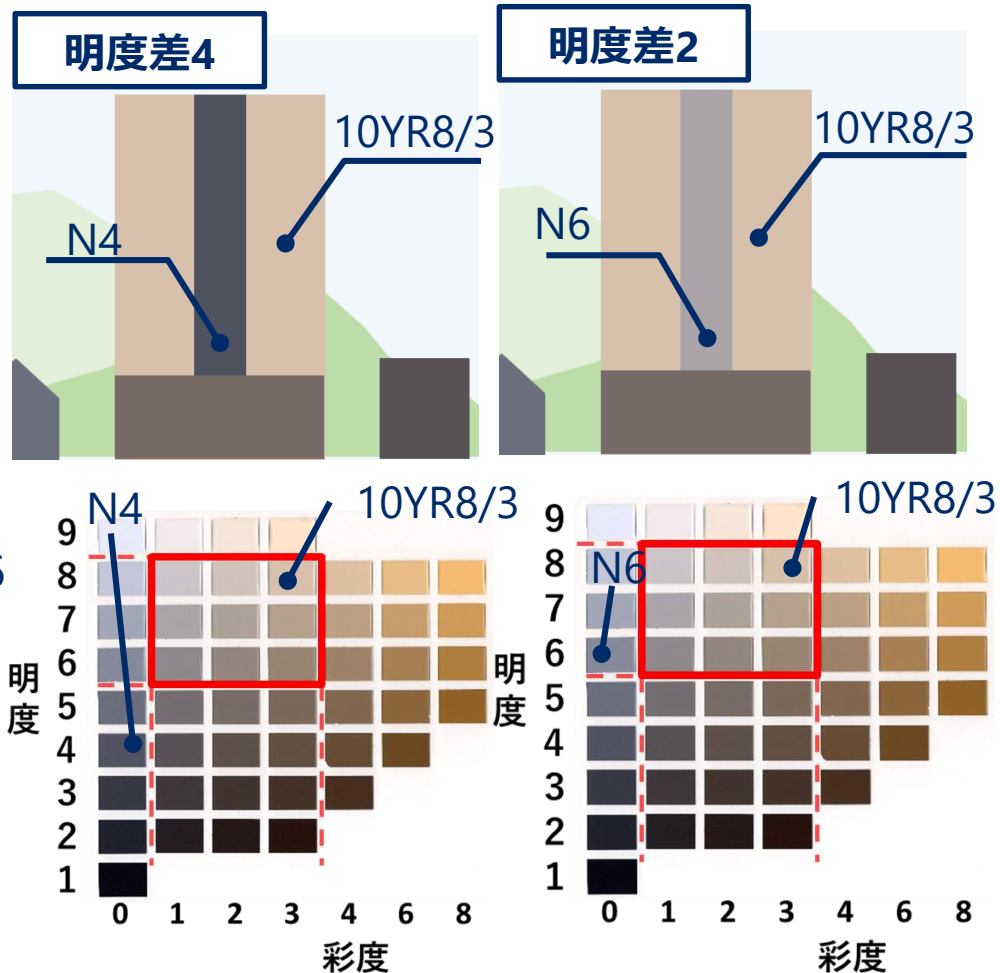
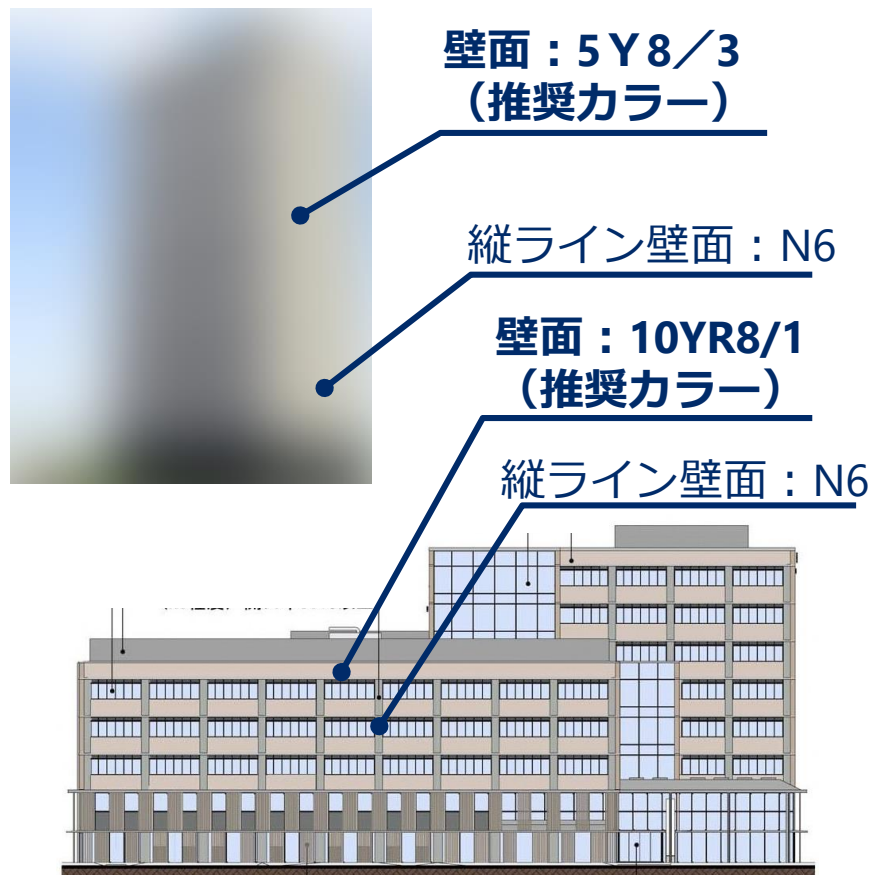
低彩度で無機質な色彩を避けることは、自然色との調和に効果的です。

⇒ 外壁サンプルを用いて検証します



IV.推奨カラー（案）

推奨カラーを主として複数色使用する場合



複数色使用する場合、推奨カラーと調和する色彩（明度差2程度）と認められる場合はベースカラーの一部として取り扱う

3. 高層建築物に対する色彩構成（配色）の検討

- I. 色彩構成（配色）の検討**
- II. 見上げる景観における建物色彩の影響**
- III. 市民目線での好ましい色彩構成**

I. 色彩構成（配色）の検討

サブカラー、アクセントカラーを配色する位置によって受け取る印象が変わる



推奨カラー（見付の70%）

色相	明度	彩度
2.5YR～5Y	6～8	1～3

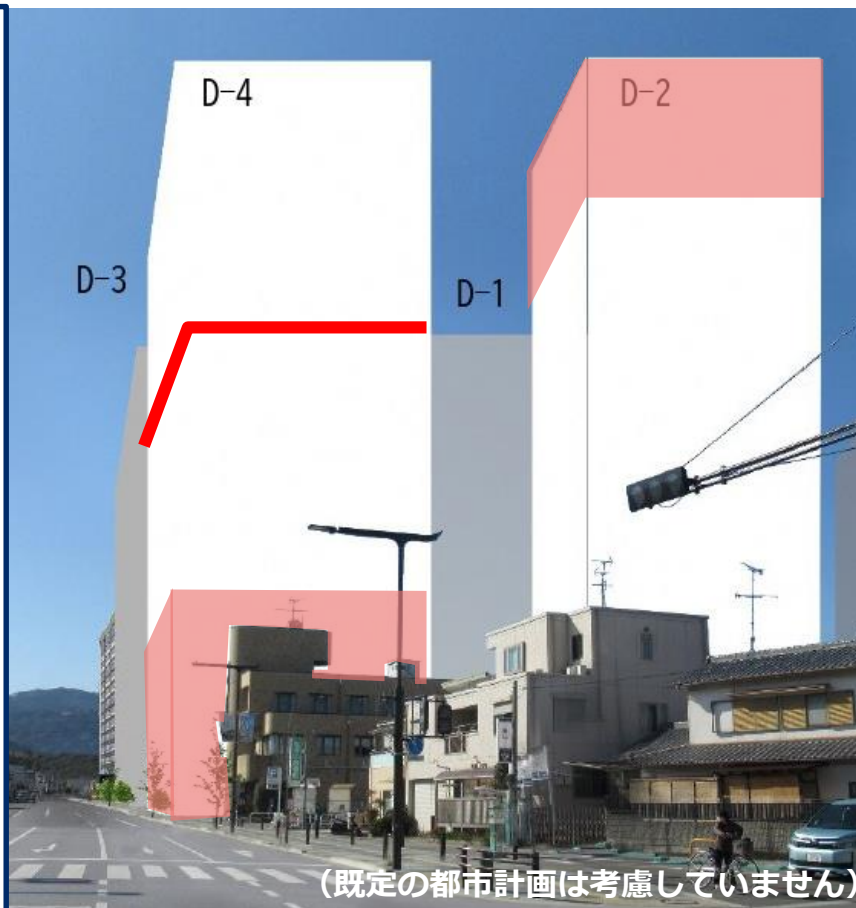


サブカラー（見付の30%）

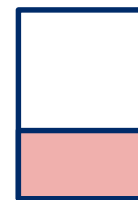
色相	明度	彩度
R・YR系	4～8	5以下
Y系	4～8	4以下
R・YR・Y系以外	4～8	2以下
N系については明度8以下とする		

— アクセントカラー（見付の5%）

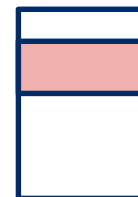
色彩基準なし



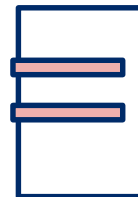
（既定の都市計画は考慮していません）



低層部



中高層部



アクセント
カラー

高層建築物に多くみられる色彩構成を検討

I. 色彩構成の（配色）検討

低層部

サブカラーを低層部に配色するパターン



事例 1

【推奨カラー】

1. 25Y8/1
2. 5Y6/1



- サブカラーを横縞模様で配色

事例 2

【推奨カラー】 【サブカラー】

2. 5Y7/1
- 5B4/2
- 5R8/5



- 3 F までをサブカラーで配色
- 見付の 5% 未満のサブカラーを縦に配色

事例 3

【推奨カラー】 【サブカラー】

1. 25Y7/2
- 5YR4/2



- 5 F までをサブカラーで配色

事例 4

【推奨カラー】 【サブカラー】

7. 5YR7/2
- 10YR4/3
7. 5YR6/2



- 5 F までをサブカラーで配色
- 6 F 以上を 2 色の推奨カラーで縦方向に塗分け

事例 5

【推奨カラー】

- 10YR7/1



- 単色の推奨カラーで配色

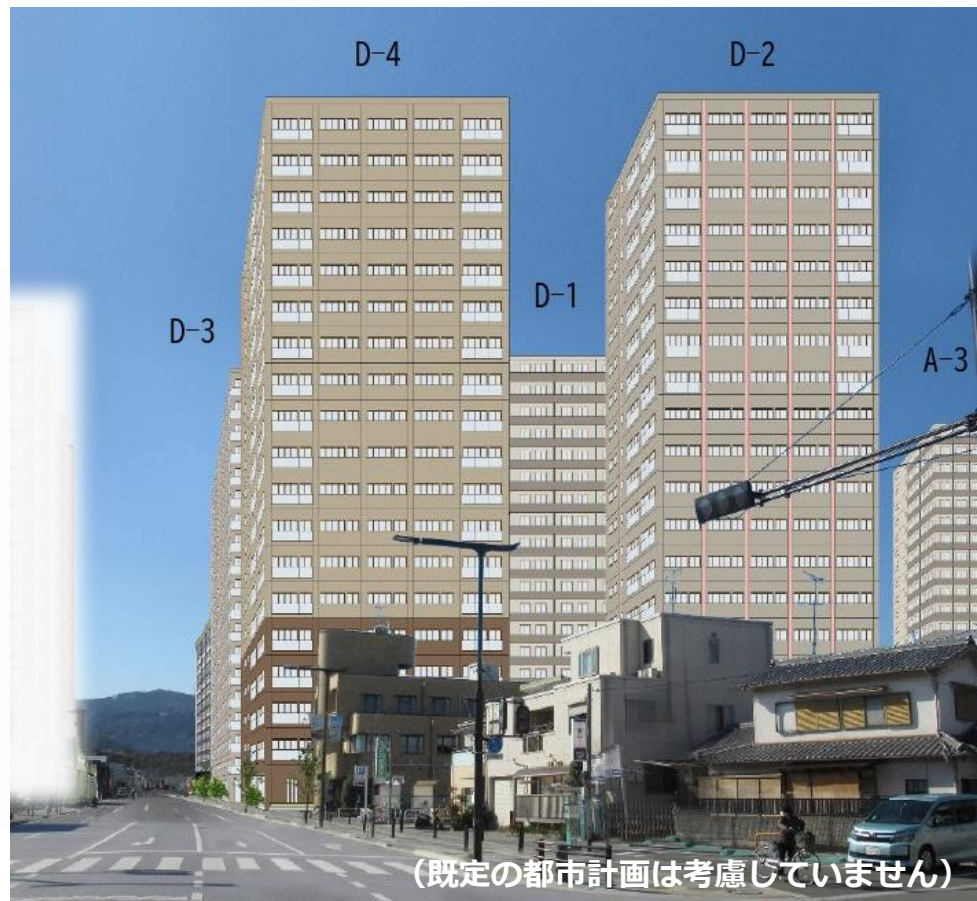
サブカラーを低層部に配色することで

■ 高層部について

- ・ 推奨カラーを基調とするベースカラーは背景となる山や空との調和を図れる
- ・ 小面積（5%未満）のサブカラーであれば目立った印象にならない

■ 低層部について

色彩基準の範囲が広いサブカラーは既存のまち並みの色彩（大規模以外の色彩基準）と調和する



I. 色彩構成（配色）の検討

中高層部

サブカラーを中高層部に配色するパターン



事例 1

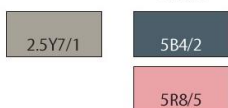
【推奨カラー】【サブカラー】
1. 25Y8/1 N4



●サブカラーを横縞模様で配色

事例 2

【推奨カラー】【サブカラー】
2. 5Y7/1 5B4/2
5R8/5



●サブカラーを高層部に配色
●見付の5%未満のサブカラーを縦に配色

事例 3

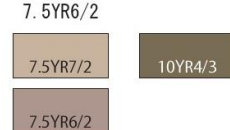
【推奨カラー】【サブカラー】
1. 25Y7/2 5YR4/2



●サブカラーをモザイク状に配色

事例 4

【推奨カラー】【サブカラー】
7. 5YR7/2 10YR4/3
7. 5YR6/2



●サブカラーを縦ライン（太）で配色
●5Fまでを推奨カラーで塗分け

事例 5

【推奨カラー】【サブカラー】
10YR7/1 10Y4/3



●サブカラーを縦ライン（細）で配色

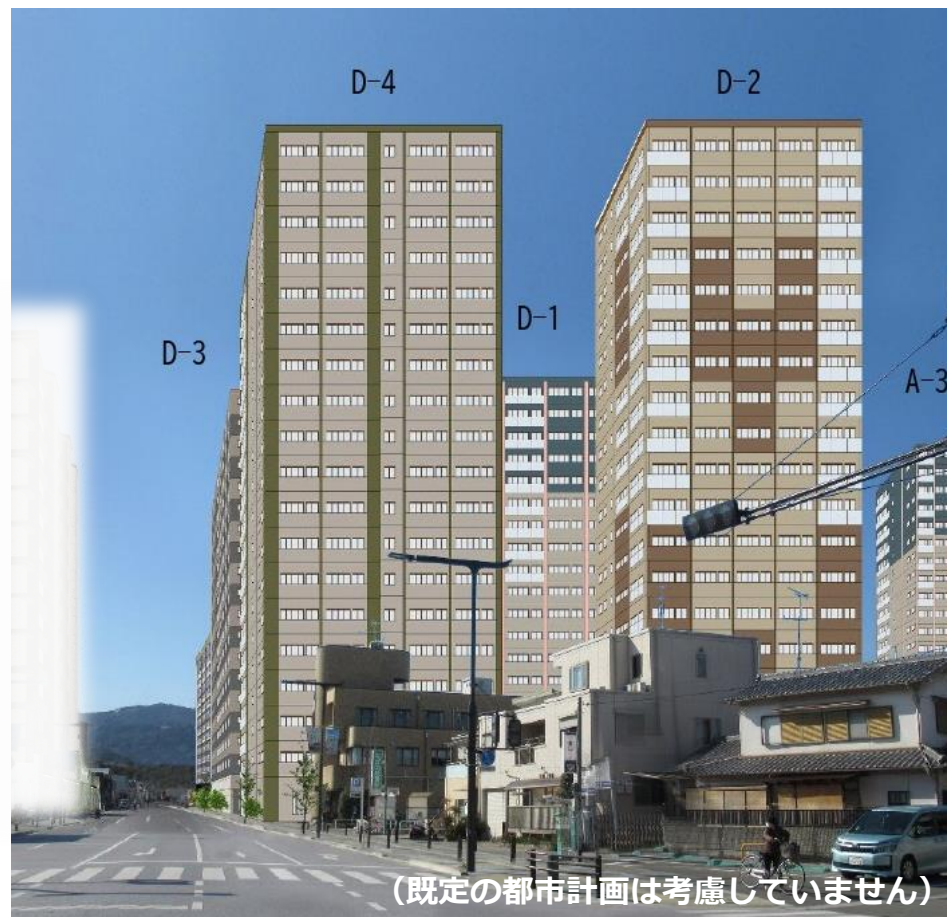
サブカラーを中高層部に配色することで

■ 高層部について

- 重い印象を与える低明度の色彩を高層部に使用すると圧迫感を感じたり不安定な印象となる
- 隣棟間で多彩な色彩構成が現れるため落ち着きのない群景観となる

■ 低層部について

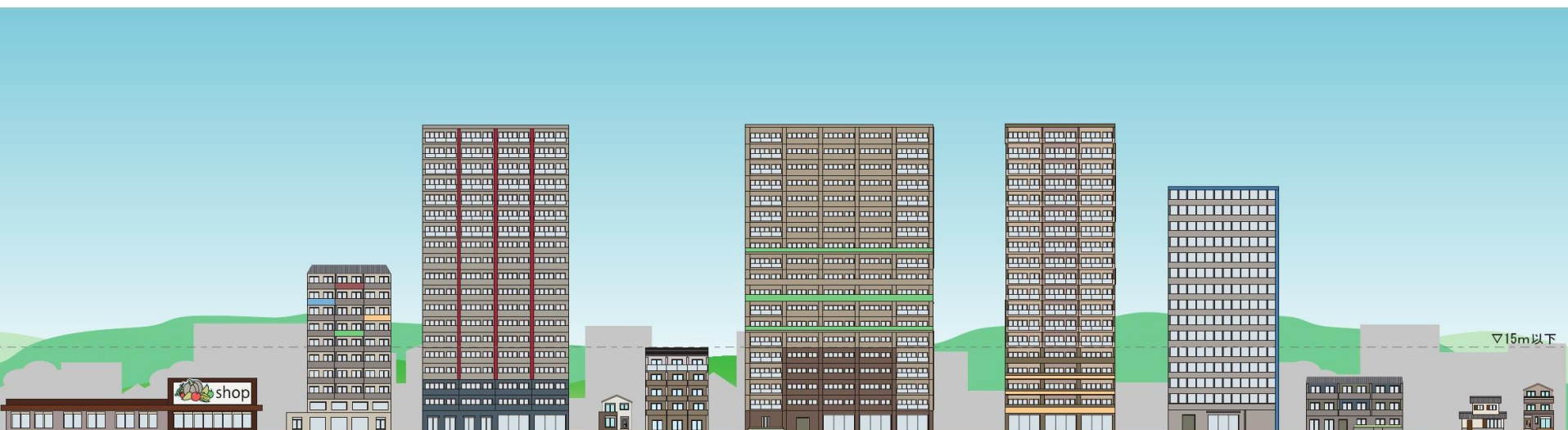
色彩基準の範囲が広いサブカラーは低層建物のまち並みの色彩（大規模以外の色彩基準）と調和する



I. 色彩構成（配色）の検討

アクセントカラー

アクセントカラーを中高層部に配色するパターン



事例 1

【推奨カラー】
1. 25Y8/1
2. 5Y6/1

【アクセントカラー】
10R4/4
10B6/6
10YR8/6
10GY6/6

1.25Y8/1 10R4/4 10B6/6
2.5Y6/1 10YR8/6 10GY6/6

●アクセントカラーを中高層部のバルコニーに配色

事例 2

【推奨カラー】 【サブカラー】
2. 5Y7/1 5B4/2

2.5Y7/1 5B4/2

【アクセントカラー】
5R4/14

5R4/14

●アクセントカラーを縦ラインで配色

事例 3

【推奨カラー】 【サブカラー】
1. 25Y7/2 5YR4/2

1.25Y7/2 5YR4/2

【アクセントカラー】
10GY6/6

10GY6/6

●アクセントカラーを横ラインで配色（中層部）

事例 4

【推奨カラー】 【サブカラー】
7. 5YR7/2 10YR4/3
7. 5YR6/2 10YR4/3

7.5YR7/2 10YR4/3
7.5YR6/2 10YR4/3

【アクセントカラー】
10YR8/6

10YR8/6

●アクセントカラーを横ラインで配色（低層部）

事例 5

【推奨カラー】 【アクセントカラー】
10YR7/1 10B5/10
10YR7/1 10B5/10

10YR7/1 10B5/10

●アクセントカラーをフレーム状に配色

I. 色彩構成（配色）の検討

アクセントカラー

アクセントカラーを中高層部に配色することで

■ 高層部について

高彩度な色彩を高層部に配色すると

山・空などの自然色との対比が激しく見える

■ 低層部について

既存商店の色彩や広告物と相まって

商業的な賑わいの雰囲気と調和する



Ⅱ. 見上げる景観における建物色彩の影響



床裏面（天井面）に明るい色彩を用いた建築物



床裏面（天井面）に暗い色彩を用いた建築物のイメージ



床裏面（天井面）に高彩度の色彩を用いた建築物のイメージ

歩行者目線で視認できる床裏面（天井面）は上層部になるほど印象が大きくなる

街路景観としては 圧迫感を与えたり目立った色彩を避けることが望ましい

Ⅲ. 市民目線での好ましい色彩構成



高層建築物の配色について

- サブカラーとアクセントカラーは低層部で使用する
- サブカラーを高層部で使用する場合は見付面積の5%未満とする
- 床裏面（天井面）は圧迫感を与えたり目立った色彩を避ける

4. 第4回専門部会の検討事項

- I. 高層建築物に対する色彩誘導の内容**
- II. 景観形成ガイドラインへの補足**

I . 高層建築物に対する色彩誘導の内容

高層建築物のベースカラーについて

- 推奨カラーは

色相	明度	彩度
2.5 YR～5 Y	6～8	1～3
- 複数色使用する場合、推奨カラーと調和する色彩（明度差2程度）と認められる場合はベースカラーの一部として取り扱う

配色手法について

- サブカラーとアクセントカラーは低層部で使用する
- サブカラーを高層部で使用する場合は見付面積の5%未満とする
- 床裏面（天井面）は圧迫感を与えたり目立った色彩を避ける

Ⅱ．景観形成ガイドラインへの補足

長岡京市景観計画

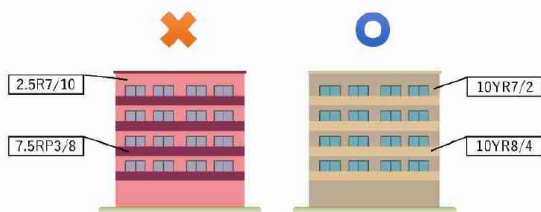
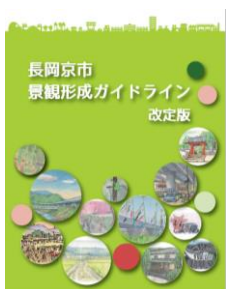
景観形成基準（建築物の色彩）

建築物の色彩は、色彩基準に適合するとともに、西山の眺めや周囲の景観との調和に配慮したものとする。



景観形成基準の解説・例示

景観形成ガイドライン



極端に明るい色や暗い色、鮮やかな色は使用しないようにします。

別紙でガイドラインの解説・例示を補足

● 対象とする区域

どこで建つ建築物を対象とするか
→景観計画区域で対象範囲を決定

● 対象とする建築物

対象とする高層建築物は何m以上とするか
→建物の高さ規制や街路景観などを参考に決定

● 建築物の色彩誘導

西山・空と調和するのはどのような色彩か
→推奨カラーのマンセル値の範囲を示す

● 色彩構成（配色）

ベース・サブカラーの構成をどう誘導するか
→望ましい配色作法を示す

(別紙)